

3) 橋梁被害

内陸型地震、海溝型地震のそれぞれについて、橋梁の危険度ランクを以下のように評価した。

橋梁の地震時確認優先ランクの設定

道路橋示方書年度	震度5以下	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
～1979	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ
1980～1995	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
1996～	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ

注) Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの順番に確認優先度が高い。

ア) 内陸型地震のケース

- ①奈良盆地東縁断層帯、中央構造線断層帯では、危険度ランクⅠの橋梁数が多い。その他の地震ではランクⅡが多い。
- ②対象全橋梁について、ランクⅠの橋梁が最も多いのは奈良盆地東縁断層帯である。第一次緊急輸送路上の橋梁について、ランクⅠの橋梁数が最も多くなるのは中央構造線断層帯である。

イ) 海溝型地震のケース

- ①県管理の主要橋梁292箇所について、海溝型地震では危険度ランクⅠはない。
- ②東南海・南海地震同時発生および東海・東南海・南海地震同時発生ケースでは、第1次緊急輸送道路上の橋梁の危険度ランクⅡ、Ⅲは同程度となる。

橋梁危険度ランクの想定（内陸型）

地震名	全橋梁数	対象全橋梁			内) 緊急輸送路(1次)上の橋梁		
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
①奈良盆地東縁断層帯	292	156	121	15	53	47	2
②中央構造線断層帯	292	142	129	21	67	33	2
③生駒断層帯	292	94	171	27	45	55	2
④木津川断層	292	55	164	73	22	55	25
⑤あやめ池撓曲一松尾山断層	292	82	153	57	39	49	14
⑥大和川断層帯	292	93	168	31	44	51	7
⑦千股断層	292	91	167	34	28	72	2
⑧名張断層	292	85	170	37	27	71	4

橋梁危険度ランクの想定（海溝型）

地震名	全橋梁数	対象全橋梁			内) 緊急輸送路(1次)上の橋梁		
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
①東南海・南海地震	292	0	119	173	0	45	57
②東南海地震	292	0	84	208	0	25	77
③南海地震	292	0	42	250	0	14	88
④東海・東南海地震	292	0	84	208	0	25	77
⑤東海・東南海・南海地震	292	0	119	173	0	45	57

注1) 調査対象橋梁は長さ15m以上の県管理の主な橋梁

注2) 対象全橋梁は、緊急輸送路1次と2次の合計

4) ため池被害

県内の農業用ため池は、奈良盆地を中心に6,337箇所（平成16年3月末現在）ある。本推計では、このうち防災対策が必要なため池整備箇所309箇所について、液状化危険度マップとの重ね合わせ、被害が生じる危険性の高いため池を抽出している。

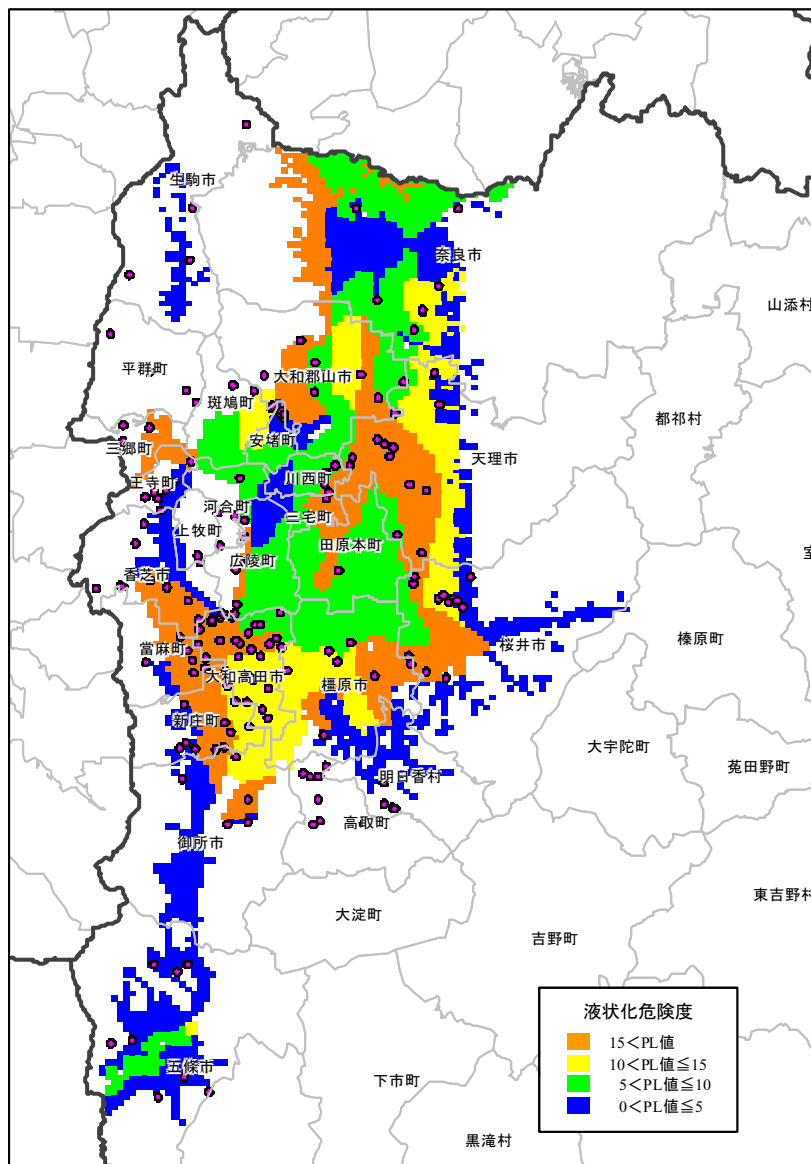
ア) 内陸型地震

内陸型地震ではいずれも、盆地部で強い揺れが生じ、結果として広範囲に液状化が発生する可能性がある。このため、ため池の立地条件によっては、揺れによる堤体の崩壊や、地盤の液状化に伴う側方流動が生じ、結果として浸水被害、周辺の地盤災害、溢水被害を生じる可能性がある。

また、ため池および水路の使用不能は、災害後の農業活動へも影響する。

液状化による被害が大きい市町村は、天理市・大和高田市・香芝市・新庄町・當麻町等である。

ため池の分布と液状化危険度【奈良盆地東縁断層帯】



イ) 海溝型地震

海溝型地震では長周期の揺れと継続時間が長いことから、液状化危険度が高い一部の地域では、周辺を含む地盤の液状化とこれに伴う地盤被害および漏水被害、長周期での地震動でため池の液面が大きく震動することに伴う溢水被害が想定される。

ため池の分布と液状化危険度【東南海・南海地震同時発生】

